

蛇口から出る水は
ミネラルウォーター!
『星空の美しいまち日本一』
小林へようこそ!

おすすめの時季 /
5月 生馬肉(原木)祭り
6月 井出の山ホルン祭り
8月 サッパやBBQなど
夏のアツクイ
10月 生馬肉高炭 コスモス祭り
12月 神楽の舞(高原町)

おすすめのお店
5月 生馬肉(原木)祭り
6月 井出の山ホルン祭り
8月 サッパやBBQなど
夏のアツクイ
10月 生馬肉高炭 コスモス祭り
12月 神楽の舞(高原町)

おすすめの時季 /
5月 生馬肉(原木)祭り
6月 井出の山ホルン祭り
8月 サッパやBBQなど
夏のアツクイ
10月 生馬肉高炭 コスモス祭り
12月 神楽の舞(高原町)

RASHISA.

- *Contents_
- ①「古着屋やりたいんですけど」
 - ②なぜ小林で古着屋をするのか?
 - ③開業資金について、お金のつかい道
 - ④起業サポートについて
 - ⑤移住を考えている人たちへ
 - ⑥小林ではじめてのフェス主催
 - ⑦来年に向けて

小林で古着屋を開業するその理由。



Creators in KOBAYASHI

上岡唯子(カミオカユイコ)
cafe musumi 店主
Guesthouse LOOP オーナー
1990年、神奈川県生まれ、小林市在住。
結婚を機に2017年に小林市に移住。
同年10月にカフェ開業。
2021年に現店舗に移転しカフェ、
宿、通販で運営を行う。

友安麻里亜(トモヤスマリア)
小林市出身。
大学卒業後、鹿児島県錦江町の
地域起こし協力隊としてライターに。
駆け出しながらも地域と人に密着した
執筆活動を楽しんでいる。
協力隊卒業後は高原町へUターン予定。
もの書きと本屋で起業を目指す。

永山省吾(ナガヤマショゴ)
KITSUNE COMMERCIAL
クリエイティブディレクター
小林市出身。
大学中退後、音楽とアートに傾倒する中
友人との出会いから写真の道へ。
横浜でのWebディレクター、デザイン
業務を経て個人で広告制作業務を営む。

お問合せ先



総合政策部 地方創生課
〒886-8501
宮崎県小林市細野300番地
小林市役所 本館3階

Phone: 0984-23-1148
FAX: 0984-23-6650
Webサイト: <https://www.city.kobayashi.lg.jp/>



総合政策部 地方創生課
お問合せフォーム



01「古着屋 やりたいんですけど」

比志島: 家族の近くにいたかったので、最初からどこのタイミングで小林に帰ろうと思ってました。ちょうどそのタイミングで古着屋さんをやりたいと思い始めて…。都会から離れた場所で突っ込んだ内装でやった方が目立つかなと。小林のどこでお店をやるか決めた上で轟木さんに「一緒に古着屋さんやりませんか?」と言いました。

轟木: 最初、LINEじゃなかった?

上岡: 思いの部分も言わずいきなり「やりませんか?」って言ったの?

比志島: 轟木さんは当時、結婚しそうな方がいたので断られるかもしれないと思って。

上岡: ワンクッションおいて俺と古着屋をするのか、彼女との未来をとるのか聞いてみたのね。(笑)

轟木: まあ結局、古着屋をとったんですけど(笑)。僕も帰りたい思いはあったんですけど…。そんなとき比志島から連絡がきて。最初は冗談かなと思ったんですけど、話を聞いたら本気で。どうせなら地元でやろうって決めました。

上岡: 2人共通で小林に帰りたい気持ちがあったんだね。



Interview of

CHILK

Owner_ 轟木 凌也 Ryoya Todoroki
比志島 隆太 Ryuta Hishijima



Chief Editor
上岡 唯子 (カミオコユイコ)
cafe musumi 店主
Guesthouse LOOP オーナー
自身が小林に移住した背景もあり、
現在も相互的に情報交換している。
赤松通りを通して新たな交流拠点と
なるようにCHILKと画策中。



Writer
友安 麻里亜 (トモヤスマリア)
小林市出身
ライター
思い入れある地元の若い起業家を
陰から応援したい。
比志島くんは起業の先輩で
保育園からの後輩。

Design/Photo_ Shogo Nagayama

02 なぜ小林で古着屋をするのか?

友安: CHILKの発起人は比志島君なんですよ。なんで小林の赤松通りにしたんですか?
都会の方がカルチャーも熱いし若者も多いのに。

比志島: 最初は東京で一人でやろうと思ってたんです。でも服飾の専門知識もないし、アパレルの経験もなかったから東京でやるのはリスクがあるなと思って。物価は高いし入れ替わりも激しいし。赤松通りは小さい頃から来ていて思い出のある通りだったので。未開拓すぎて楽しみもありましたし、単純に自分が育った地元の若者に古着に触れてもらって、将来のきっかけや選択肢が増えれば良いなと思ったんです。僕も学生の時からカルチャーに触れていたら違った道に進んでただろうし。進路の手助けをしたいと思うのは地元だからこそかもしれないですね。

轟木: 最初は宮崎市内も検討したんですけどね。誰かがやるのを待っても先が見えないなと。小林で地盤をつくるのは大変かもしれないけど、いい意味で競合もなくていろんな人が食いついてくれるかなと思ったんです。あと、外に出る子の方が絶対的に多くてUターンする人はどうしても少ないじゃないですか。自分たちが好きな仕事をして、起業にしても就職にしても可能性を残すことが結構大事なのかなと思って、どうしても諦めから入っちゃう人が多いから。「小林では無理でしょ」みたいな。

友安: カルチャーが弱いからこそ小林の若者に向けてやる意味がある。そうだね。以前、サングラスのポップアップとか写真の個展とかしてたじゃないですか。個展をやる古着さんも珍しいと思うんですけど、CHILKは古着以外のところも大きいと感じていて。個展をする目的とは?

比志島: そうですね。古着屋ではあるんですけど、お客さんが古着に触れる幅を広げたくて。絵とか写真とかの方がファッションの文化に繋げやすいかなと、そこを軸に個展をしています。あとは同年代の人とつながりたいと思っているので、県内で年齢が近い人によく頼っています。

轟木: いろんな人と繋がれるかもしれないです。陶芸家の方とポップアップした時は料理人の方が来てくれたり。作家さんとうちのお客さんとか友達が普通に話してる様子を見ていいなと思ったし。

友安: 小林の新しい文化の間口みたい。お店を始めてからどんな気持ちの変化がありましたか?
生活も落ち着いてきて、人との関わりも増えて。日々どんな気持ちでお店をしてるんだろう。

轟木: 仕事に向かう時に面倒くさいとか起きるのだから、憂鬱な気持ちが全くないですね。会社の人しかいない工場だったのが、関わる人の幅もとんでもなく広がって。そもそも好きなことをやっているので毎日楽しいです。友達とか家族もですけど、お店に遊びに来てくれるのが嬉しい。その人たちの生活の中の時間をここで過ごしてくれていることが感慨深いというか。

比志島: あと、起業してなかったら行政の方とも繋がれなかったなと思っていて。小林の内部の事情だったり、まちをどうしていきたいかを運営してる人から聞けるのはすごく新鮮ですね。小林の同世代で面白いことをしている人とか、お店をやる人たちと繋がれたこともCHILKを始めたからこそかなと思います。

上岡: 今後はどうですか? 目標とか。

比志島: 今までアーティストを呼んで営業をすることが多かったけど、今後は外に出たいと思っています。ポップアップもそうですし、モールとか県外の古着のイベントに出店して、自分たちから新規のお客さんを獲得していけるようなアクションを起こせたらいいなと。

轟木: ポップアップはやったことがないから。ここはホームですけど、アウェイなところでやってみたい。CHILKに来たお客さんも小林に初めて来る人が多くて。

上岡: 正直、小林を推さなくてもCHILKを知ってもらえばいいわけだけど、やっぱりまちを知ってもらいたいというのは地元だからこそだね。

03 開業資金について お金のつかい道

友 安: 地元で起業することに意味があるとは思いますが、食べていける方法が分からないから不安じゃないですか。でも小林に帰ってきて半年後にはお店をオープンって結構スピードありますよね。東京でいろいろと前もって準備されていたと以前聞いたけど、資金も内装も何も目に見えない中決めるのは大変だったんじゃないですか？

比志島: そうですね。2020年12月には帰ってきてんですけど、準備を始めたのは2018年くらいからでした。挨拶まわりとか細かいところは残っていたけど、基本的な下地は東京にいるときには終わってましたね。

友 安: なるほど。2年間で具体的に何を準備しました？

比志島: 開業資金は…具体的にオープンしたいというより今から貯めたら何年後に資金が貯まるかで決めたんです。「この日に帰ってこの日にオープンする」とざっくり決めて、それまでの期間で準備をしたんですけど。物件はネットで見つけて、不動産屋に連絡して。古着は警察に古物商の届け出をしないとダメで。コーヒーも出したいと思っていたので、飲食営業許可関係とか。あとは内装をどうしたか。店内でこういう音楽を流そうとかお互いに確認し合ったりもしましたし、都市部から離れている地方の古着屋さんにも実際に行って話を聞いたりもしていました。

友 安: トピックが目まぐるしいですね。(笑) 起業って届け出して終わりじゃないんですね。…もうお腹いっぱい怖いんですけど、開業資金、どれくらいかかりました？貯金、借入れと助成金、それからクラウドファンディング。この4つで資金集めましたよね。

比志島: 開業資金は2年間で2人で300万貯めて、銀行から200万円借入れして、小林市の移住支援金が一人につき60万円と、空き店舗補助の50万円。全部で500万円でした。クラファンは資金のためというよりPRとして使いましたね。

上 岡: すごいね。貯蓄で300万円って。どうですか？その金額で実際余裕はある？

比志島: そうですね。移住支援金は個人の生活費に当てたりで全額CHILKには充てていなかったの、余裕はあったかなと思います。

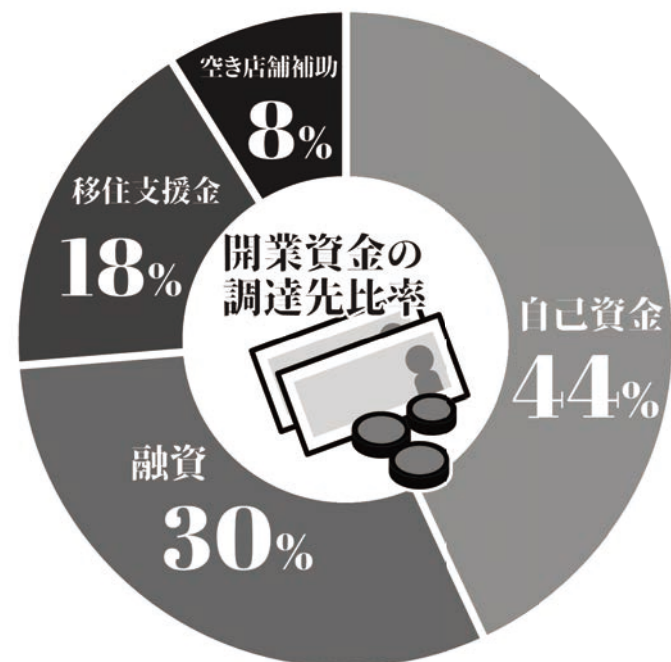
友 安: ほぉ…。期間的にはどう考えたんですか？

比志島: 小林にデータがなすすぎて。どのくらいお客さんが来てくれるかのデータは全く予想できなかったの…。すごく慎重になって、2年~3年分くらいの見通しでお金を貯めて借りようと思ったという感じですね。

上 岡: 軌道に乗るまで2年を想定して、その分の資金を貯金と借入れでつくったってことね。認知度と一緒に想像通り売り上げも上がっていった？

轟 木: もうちょいいきたいですね。認知度は自分達が予想している以上に広まってきていると思うんですけど、売り上げは平日と休日でのギャップがどうしてもあるので。認知度が上がれば口コミで来てくれる人は増えるだろうから、下地をつくってじわじわお客さんを待つみたいな感覚はあります。

比志島: 東京の古着屋の先輩に「5年間我慢すれば大成する」と言われて、そこまで一旦がむしゃらに頑張ろうと思っていますね。



04 起業サポートについて



友 安: 運営資金とか、お金の相談も先輩にしています？補助金がどこで受けられるとか教えてもらった？

轟 木: 帰ってきた時に、結構早めに地方創生課に相談に行って、そしたら移住支援金だったり、空き店舗の補助金だったりを紹介してくれて。それが行政との最初の関わりで、市役所の人も結構興味を持ってきて。新聞社の人を紹介してくれたりとか、いろんな媒体に広告を打ってくれたりとか。その他の補助金では商工会議所の方に中小企業診断士の方がいるので、その人に使えそうな補助金がないか相談しに行って「この制度使いたいですけど」みたいな感じで相談しました。

友 安: サポートを受けて勉強になったことはありますか？

轟 木: 相談に行かないと手厚いサポートのチャンスを逃しちゃうこともあると分かったので、とりあえず簡単に聞きに行くのは大事ですね。あと、国の補助金は素人ではすごい難しいと思うので大変そうなことはとにかく役所に聞いた方がいいです。

05 移住を考えている人たちに

上 岡: 移住を考えている人に伝えたいことはある？

轟 木: 気持ち。気持ちっすよ。

比志島: どこでもそうでしょ。

轟 木: 気持ちと勢いっすね！

上 岡: 地方に行きたい気持ちがあれば、それでもいいのかもね！

轟 木: あとは、面白い人がたくさんいるから…。そこが魅力かなと一番思ってるんですけど。生活の環境もですけど、関わる人もすごい大事なんじゃないかな。Uターン組もIターンしてきた人もいるし、移住してきた人の気持ちが分かる人がたくさんいると思うので、そういう人たちに会ってほしいです。

上 岡: 比志島くんはどう？

比志島: この冊子のマップを巡ってください。

上 岡: 確かに！マップを頼りに。山麓フェスで2人のコミュニティができてきていると思うから、このパンフレットを見て参画したいとか、楽しそうと思ってくれる人に届くといいなと思っています。



2人の輪がこの赤松通りから広がってどんどん大きくなっていくとお面白いよね。

轟 木: パンフレットの情報も大事だし、あとはネットで調べたらいろいろと情報が出てくると思うけど、もし移住して暮らすとなると、リアルな空気感を味わってみたい方がよくないですか？雰囲気を味わわずに移住してきた時のギャップにガクッとなるともったいないというか。だから、1回でもいいから小林に来てみてください。

上 岡: 一週間滞在すればどこかできっと2人ともお話ができると思う。お試し移住もできるし、そういう流れができるといいなと思っています。

友 安: 小林にもお試し移住制度があるんですか？

上 岡: そうそう。自分で役所の方に手続きをしたら宿泊補助金があるよ。レンタカー代も一部出るかな。移住を考えてる人にもっと活用してほしい。



06 小林ではじめてのフェス主催

上 岡:なんで今回山麓フェスをやろうと思ったの?

轟 木:最初は飯食いながら軽いノリで始まったんですけど、「音楽じゃない?」みたいな。「B面」で自分たちなりに小林をカッコよくしたくて。

友 安:B面?

比志島:B面は僕と轟木くんと友達と、宮崎市のフォトグラファターの4人でつくるんですけど、本業がA面で、それとは差別して活動したかったので「B面」です。その、外でやりたいという意見が最初に出て、カルチャーとして一番共感しやすいのが音楽だと。それで、県内でも山側でのフェスはないからいいねって。

CHILKのイベントの延長線みたいな認識だったけど、実際進んだら後戻りできないくらい大きくなってました…

上 岡:かなり大きくなったよな(笑)。

比志島:親も心配してたみたいです。全然お客さん来なかったらどうしよう?みたいな。

最初はB面と協力してくれる仲間の6人で活動してたんですけど、年代が若いから設営のボランティアをなかなか頼めなくて。でも上岡さんたちが気にしてくださって。

上 岡:大丈夫なの!?みたいな。

どうするか話そうって1ヶ月切ってる時に(笑)。

比志島:お気遣いいただいて…(苦笑)。

地元で普段関わっている人達が助けてくれたことがすごく嬉しかったですね。

轟 木:自分たちが勝手に始めたことだから、そこに巻き込むことにどうしても申し訳なさがありました。

でもみんな親身になって手伝ってくれて。

いなかったら絶対成功してなかったです。

上 岡:いなかったらやばいレベルのことが起きてたよ(笑)。

でも、当日はちゃんとフェスとしてみんないろんな過ごし方ができてたと思うよ。楽しみ方を知ってる人達と初めてカルチャーを知る人達が混在して、地元感も残りつついい空間だった。フェスの価値が伝わらないと集客が難しいかなと思ったんだけど、初めての人がたくさんいたじゃない?その人達にはどう楽しんでもらった?

轟 木:チケット代も一般で5,000円だったので、音楽にお金を出す文化が小林はあんまりないからそこもハードルではあったんですけど、自分の家族が来てくれて。フェスはまじ初めてで楽しみ方が分からなかったらしいんですけど、遠くから見たら結構のってました。友達もお酒飲んだりご飯食べたり音楽聞いたりしてよかったです。

比志島:フェス用の椅子とか持ってきて、服もフェス着、おしゃれな服の人もいて。今回は山麓フェス自体が初めてで、どういうイベントかもみんな分からないからこそ、みんなで作って上げていくフェスになればいいかなと思ってましたね。

上 岡:お客さんはどれくらい来たの?キャパは200人くらい?

轟 木:県外一割の、小林市、都城市、宮崎市が3:3:3くらいですかね。駐車場も全然収まったし、お客さんは150人くらい来てくれた感じですよ。

上 岡:おぉ!分散してますね。

07 来年に向けて

上 岡:どれくらいの人があるイメージついたね。

来年のフェス準備も視野に入れて動いてはいると思うんだけど、どんな感じ?

轟 木:キャパは今年見た感じだと200人はいける気がしますね。自分たちのやりたかったことがあのロケーションと雰囲気できてすごい良かったので、軸は変えずにやりたいです。あとはアーティストもちょっと違うテイストも入れても面白いのかなあ。お子さんが多かったの、そこにもアプローチできたらいいなと思ってます。

比志島:会場近くに温泉もあったので、合間で入ってもらってもいいなって。

上 岡:チケットにコスモス温泉の入浴券がついたら面白いな(笑)。それだけでネタになりそう。

比志島:そうですね。今回は宿泊施設の連携ができていなかったの…。宿泊とセットでチケットを買えるプランがあればいいかなと思いましたね。シャトルバスも出せたらお酒を飲んで小林で宿泊もできるなど。

上 岡:こういうイベントを地域で連携できれば、繋がっている部分からまた1つストーリーが生まれると思う。だから新しい拠点が導線として増えることはまちとしても嬉しい部分ではあるよね。

どんどん改善を含めたら、今回のフェスをいいと思ってくれた人たちがパワーアップしてるところを見てもっと人を呼びたくなると思う。

じわじわ広がっていく感触が掴めたという意味でも、やっぱりやって良かったんじゃないかな。



CHILK

宮崎県小林市の市街地から少し離れた商店街にひっそりと佇む Gallery/Vintage clothing shop「CHILK」。古着屋の枠に囚われず、様々なアーティストとのコラボイベントを不定期で開催。



轟木凌也(トドロキョウウヤ)
1995年3月30日
2013年 関東のインフラ企業へ入社し、2020年に退職。
Uターン後、2021年7月「CHILK」開業。



比志島隆太(ヒジジマリユウタ)
1996年7月30日
東京でのサラリーマン生活を辞め、2020年12月に小林市へUターン。
趣味は、サウナとDJ。



山麓

SANROKU FESTIVAL

宮崎県小林市の自然に囲まれた野外スケートパークを舞台に、音楽と自然の融合を楽しむ音楽フェスです。エコフレンドリーな取り組みや地域コミュニティの活性化を目的とし、小林市に緑のある20代のメンバーでイベント企画を行っています。

